

Title	VIAGGIO DI HIERONIMO DA SANTO Stephano Genouefe 及びHo liuro de Nycolao Venetoに関する研究ノート
Author(s)	林田, 雅至
Citation	
Version Type	A0
URL	https://hdl.handle.net/11094/94535
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1. テキスト：VIAGGIO DI HIERONIMO DA SANTO Stephano Genouefe 及び Ho liuro de Nycolao Veneto

解題：

大航海時代叢書：15世紀末から17世紀初頭にかけて、大航海時代当時の西欧人（ポルトガル人・スペイン人・イタリア人・オランダ人・フランス人・イギリス人）による、日本を含む非西欧世界の記録（航海記・探検記・見聞録・民族誌など）を日本語訳・収録した一大叢書であり、刊行当時においては大半の原本が初訳であった。第Ⅰ期は1965年7月から70年10月に[全11巻・別巻1]、第Ⅱ期は1979年6月-92年9月に[全25巻]、さらに第Ⅱ期の刊行と並行して「エクストラシリーズ」が1985年-87年に[全5巻]で、それぞれ刊行され、完結まで27年を要した。ただ、ここには、日本に到達した記録ではないとして、今回取り上げるイタリア人旅行記2冊は含まれず、一級のザビエル研究の碩学・岸野久氏が、是非訳出するように進言されたものである。

Giovan Battista Ramusio に関して：

Giovan Battista Ramusio(1485 - 1557)は、ベネチアの人文主義者、歴史家、地理学者。ベネチア共和国で多くの官職に就き、特に1515年以降元老院書記官を務めた。ラテン語、ギリシア語に精通し、重要な旅行記の集大成である『航海と旅行(*Delle navigationi et viaggi*)』3巻(1550 - 59)を刊行した。これは大航海時代に関する基本文献と位置付けられる。

本書は、イタリアのみならずヨーロッパにおける本格的な『旅行記集成』の礎を築いた記念碑的名著とされる著作で、全3巻のうち、日本を含むアフリカや沿岸部アジアを対象とした第1巻の最終改訂版として、1613年にヴェネツィアで刊行。第1巻初版刊行の1550年から半世紀以上にわたり、版を重ね、読み継がれ、後世に影響を与えた。プトレマイオスらによる古代・中世的世界観と、大航海時代がもたらした「新世界」とを、歴史・地理の両面で、通時的・共時的に統合させ、「世界全体」の包括的な記述を試みている点に大きな特徴がある。

全3巻で70編余1000葉(mil folhas)近くに及ぶ収録作品の底本テキストの選択について、諸写本・諸版本を対校するなど文献学的検討(原典批判)を加え、それをラテン語ではなくイタリア語に訳し、可能な限り全文を収録している。

空間的にも、地球のほぼ全域を万遍なくカバーし、単純な記述ではなく、航海と旅行というタイトルが示すとおり、航海や旅行を行った人間の動きに焦点を当てて、人間の行為を中心にして動的に世界を把握するという、ルネサンス的な視点を明確に据え、編纂されている点にも極めて大きな特徴がある。

具体的には、単なる地名や位置の特定、遺跡や珍奇な事物の列挙ではなく、それぞれの国や地域の自然・産物・風俗習慣・伝達手段・歴史・通商関係など様々な側面に及び、諸国・諸地域を自然的・地理的空間としてのみならず、そこに居住する人間の歴史的・文化的空間としても把握しようとしている。

ヨーロッパにおいて、19世紀まで世界のいくつかの部分については基本的文献の一つとして用いられ、今なお唯一の記録としてそれ以前の写本・刊本の発見されていないものも数多い。本書には、ザビエルが日本訪問のきっかけとなった鹿児島出身のアンジローからの聞き取りに基づく日本報告をはじめ、ザビエルが日本から発信した初期の書簡など、ヨーロッパにおける最初期の日本関係記事が収録され、日本関係欧文図書としても極めて高い価値を有する書物である。

ジョバンニ・バティスタ・ラムージオ：

<http://www.aobane.com/books/1013>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

日本の代表的なザビエル研究者・岸野久(1942～)

<https://ci.nii.ac.jp/search?q=%E5%B2%B8%E9%87%8E%E4%B9%85&range=0&nrid=&count=100&sortorder=1&type=1>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

テキスト：VIAGGIO DI HIERONIMO DA SANTO Stephano Genouefe について：

ヒエロニモ・ダ・サント・ステファノは、彼の流浪の船旅をを通して、注意深い観察者であり、インド洋の樹木、船舶、人々の宗教、風俗習慣に関する様々な情報を我々に提供した。彼自身の手による冒険譚の旅の記述は、ジョバンニ・バティスタ・ラムージオ(Giovan Battista Ramusio:1485-1557)編纂『航海旅行記集(*Delle navigationi et viaggi*)』に採録された。Ed.Ramusio：VIAGGIO DI HIERONIMO DA SANTO Stephano Genouefe dirizzaro à mefter Giouan Iacobo Mainer, di lngua Portoghese tradotto nella lialiana (Fol.345-346) de "*Delle navigationi et viaggi*" de Giovan Battista Ramusio.第1巻(1550)：

第1巻(1550)：

https://archive.org/details/cihm_94409/page/n7/mode/2up?view=theater

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

University of Alberta Library：

https://archive.org/details/cihm_94409/page/n183/mode/2up?view=theater&q=albori+Hieronimo

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

参考：<https://www.historiaregni.it/da-genova-a-sumatra-il-viaggio-di-girolamo-da-santo-stefano/>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

要約：

1491年リグーリア・ジェノヴァを出発、2人のジェノバの商人、ヒエロニモ・アドルノとヒエロニモ・ダ・サント・ステファノがカイロと紅海(港：コシル[現在：エルクセイル])；

アデン[出口：4か月滞在])を經由して、海路35日でインド・カリカットに到着し、セイロン、コロマンデル(インド南東部、ベンガル湾約700kmの海岸；7か月滞在)、ビルマのペグ(現在：バゴー；1年半滞在)、アヴァに向かった。アドルノはペグで死亡した(1496年12月27日)。サント・ステファノは、マラッカとスマトラへの旅を続け、帰路、モルディブ(マラバル諸島；数か月滞在)を巡り、インド・カンベイ(現在：グジャラート州都：カンバト)、ペルシャ湾オルムス(王国；60日滞在)、タブリーズ(イラン北西部州都)、アレppo(シリア最大都市)に辿り着くまで、艱難辛苦を乗り越えた。

また同旅行記は、ヴァレンティン・フェルナンデス翻訳著作『東方見聞録』(1502年刊)に所収されている。

同人 (Valentim Fernandes;Valentin Ferdinand) (1450年頃-1518年か1519年)は、ボヘミア近郊のドイツの影響下にあり、1480年代から印刷技術が導入されたモラヴィア(モラバ、現チェコ共和国)出身のドイツ人で、1495年にドイツ語、ラテン語、トスカーナ語、カステイーリャ語、ポルトガル語に精通する通訳・商人としてポルトガル・リスボンに移住し、23年間定住した。1503年マヌエル国王からドイツ向け香辛料取引きの市場公証人(仲買人)の勅命を受け、リジュボア(リスボン)市場におけるドイツ人商人の公証人にも任命された。一方、文藝庇護王妃レオノール(1458年-1525年)お抱えの印刷業者(王立印刷特許権授与取得者)として、多くの出版を手がけた(編集・翻訳・著述)。中でも当時の大航海時代の世相を反映して勅命で翻訳出版した、マルコ・ポーロ著『東方見聞録』(1502年刊)や『ベスト養生訓』[5-6葉立て4つ折小冊子](モンペリエ医学校・学頭(在職：1364-84年)Johannes Jacobi (c.1315-84), *O Regimento proueytoso contra ha pestenença*, trad.フランシスコ修道会士 Frei Luis de Rás, Lisboa, 1495-96年)がある。Frei Luis de Rás (?-1521)は後にリスボン大学で自然学・神学・論理学の講座を担当する：

Valentim Fernandes :

<http://search.freefind.com/find.html?pageid=r&id=58736009&query=valentim+fernandes&ics=1&fr=0>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

<http://www.tipografos.net/historia/fernandes-valentim.html>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

<https://www.scielo.br/j/hcsm/a/4Mh63wvRDQYttGsRwh5PYBq/?lang=pt>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

O Regimento proueytoso contra ha pestenença :

<https://www.scielo.br/j/hcsm/a/4Mh63wvRDQYttGsRwh5PYBq/?format=pdf&lang=pt>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/81117/>

(URL 最終閲覧日付：2024年2月19日)

[A5%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%A7%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%8B-1206172](https://resources.warburg.sas.ac.uk/pdf/nah3175b2638881.pdf)

(URL 最終閲覧日付：2024 年 2 月 19 日)

ポッジョ・ブラッジョリーニ著『様々な幸運』(1445 年頃)第 4 巻(pp.126-152)：pp.163-189：

<https://resources.warburg.sas.ac.uk/pdf/nah3175b2638881.pdf>

(URL 最終閲覧日付：2024 年 2 月 19 日)

参考：

同人誌『百万遍』：

<http://maga.happi-land.com/>

(URL 最終閲覧日付：2024 年 2 月 19 日)

高田秀樹編訳：

<http://maga.happi-land.com/id-17.html>

(URL 最終閲覧日付：2024 年 2 月 19 日)